

再評価結果(平成16年度事業継続箇所)

担当課:道路局国道・防災課
担当課長名:中島 威夫

事業名	一般国道58号 嘉手納バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	沖縄総合事務局
起終点	自:沖縄県読谷村古堅 至:沖縄県嘉手納町兼久	延長	3.2km		

事業概要
一般国道58号は、沖縄本島西側を南北に走る大動脈で、沖縄本島中南部の人口集中地域と、北部の観光・リゾート地域及び農山村地域を結ぶ主要幹線道路である。嘉手納バイパス周辺地域は、本島北部と南部を結ぶ通過交通と域内交通が集中し、特に春から夏には観光及びレジャーによる交通も加わることで嘉手納ロータリー付近では著しい交通混雑が発生し、主要幹線道路としての機能が低下している状況である。嘉手納バイパスは沖縄西海岸道路の一部として、交通混雑の緩和、沿道環境の改善を図り、北部地域と中南部地域の交流を促進し、観光産業の支援及び地域振興に大きく寄与する道路である。

S62年度事業化	都市計画決定 不要	H6年度用地着手	H14年度工事着手
----------	--------------	----------	-----------

全体事業費	約215億円	事業進捗率	12%	供用済延長	0km
-------	--------	-------	-----	-------	-----

計画交通量	54,500台/日
-------	-----------

費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年
	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	
	8.4	123/153億円	1,283/1,283億円	平成15年度
	10.4	(事業費:118/148億円 維持管理費:5/5億円)	(走行時間短縮便益:1,177/1,177億円 走行費用減少便益:57/57億円 交通事故減少便益:49/49億円)	

事業の効果等
円滑なモビリティの確保(並行する現道部の渋滞損失時間が削減する)
物流効率化の支援(重要港湾那覇港へのアクセス向上が見込まれる) 他6項目に該当

関係する地方公共団体等の意見
嘉手納バイパスは、交通混雑の緩和、沿道環境の改善、地域交流の促進、観光産業の支援等に重要な役割を果たすことが期待されており、嘉手納町、読谷村をはじめ、読谷飛行場用地所有者権回復地主会、国道嘉手納バイパス建設促進読谷村期成会等より早期整備の要望(平成16年2月)を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
北側の読谷道路の県道6号線～県道16号線間が平成15年4月に暫定供用。

事業の進捗状況、残事業の内容等
用地買収の進捗が83%である。今後は改良工事等を実施する。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
海上部の埋立範囲について地元との調整に期間を費やしたが、現在では調整も完了し平成16年度からは海上部の調査、設計に着手し事業進捗を図る。

施設の構造や工法の変更等
橋梁部において、新工法を導入し上部工の形式の変更、下部工の形式の変更等を行いコスト縮減を図る。

対応方針 事業継続
対応方針決定の理由
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

